

平成 26 年度リカレント講座において講義を行いました（2014/8/4）

テーマ：東日本大震災、震災復興
場所：せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）

災害科学国際研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門）、小野田泰明教授（情報管理・社会連携部門）、姥浦道生准教授（地域・都市再生研究部門）、花岡和聖助教（地域・都市再生研究部門）、東北大学大学院工学研究科の野村俊一助教（都市・建築学専攻）が平成 26 年度リカレント講座において講義を行いました。リカレント講座は当大学大学院工学研究科が実施している社会人を対象とした公開セミナーで、先端工学分野の知識獲得や体系化を目的とし、社会人のリカレント教育を目指すものです。その 1 つとして、2014 年 8 月 4 日にせんだいメディアテークにて、都市・建築学専攻 都市・建築計画学講座主催により「東日本大震災被災地の未来を考える」と題したリカレント講座が開催されました。

東日本大震災から 3 年 4 ヶ月余りが過ぎ、被災地では復興に向けて様々な取り組みが行われています。それぞれ異なる課題を抱えつつも、地域特性に応じた復興まちづくりが計画され、一步一步進められているところです。本講座では、国内外の復興事例を参照しつつ東日本大震災における過去 3 年間の復興を振り返り、歴史的建造物の保存・再生、建築・都市計画、データ解析という軸により復興の進んでいる街の未来を展望するとともに、学術的知見を復興にどう活かすかという観点から講義ならびにパネルディスカッションを行いました。学内外より 50 名を超える方々にご参加いただき、活発な質疑応答や盛んな産学の情報交換が行われました。各講義タイトルは以下の通りです。

- 震災復興の国際的潮流/村尾修
- データからみる震災復興：復興マネジメントにデータをどう活用できるか/花岡和聖
- 復興からまちづくりへ：持続可能な街をめざして/姥浦道生
- 復興と文化財：被災地における文化財の保全と活用の方法/野村俊一
- 復興における建築計画：復興公営住宅の整備とその課題/小野田泰明
- パネルディスカッション：「東日本大震災被災地の未来を考える」

/村尾修、小野田泰明、姥浦道生、野村俊一、花岡和聖

司会：佃悠（工学研究科都市・建築学専攻助教）



講義の様子（村尾教授）



パネルディスカッションの様子

文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）